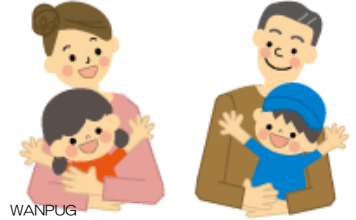




夏休み、在宅取組型の活動に取り組まれた所も多いのではないのでしょうか。
 今月号では、こども園と中学校での在宅取組を紹介します。ぜひ参考にしてみてください。

親子でハグをしよう！！



美濃ふたばこども園

【在宅取組型】

美濃ふたばこども園では、今年度初めて「在宅取組型」にチャレンジされました。
 その様子を紹介します。

【取組のきっかけ】



在宅取組型や「話そう！語ろう！わが家の約束」については知っていたが、これまで取り組んだことはなかった。昨年度からのコロナ禍で通常の活動が難しい中、新しい形の取組を考えていたところに市の担当者からの声掛けもあり、中濃地区オリジナルの「わが家の約束カード」を利用した家庭でも取り組める在宅取組を行うこととした。

【主催者の願い】

コロナ禍でも、在宅取組を通して温かい家族の時間をもってほしい。
 取組期間を長く設けてやりやすい日に行うことで、無理のない活動にしたい。

【具体的な取組方法】



- ・家庭教育学級のスタートに当たって、「家庭教育学級のお知らせ」のお便りを全保護者に配付。お便りには岐阜県資料「家庭教育って何？家庭教育学級って何？」と「家庭教育学級年間計画」および在宅取組の方法について載せ、「わが家の約束カード」と一緒に配付した。
- ・6月12日から6月30日まで期間を設け、この間でやりやすい日を7日選び、1日1回、家族の誰でもよいのでぎゅっとハグをする。ハグできた日はカードにチェックする。
- ・取組が終わったら親子それぞれがお互いにメッセージを記入する。
- ・終了後は園にカードを提出。園ではカードをチェックし、コメントをつけて返却する。(カードを返却する際には、続けて行う次回の在宅取組「いただきます、ごちそうさまの挨拶をしよう」についてのお便りと取組カードと一緒に渡し、次の活動に繋げた。)

「家庭教育学級のお知らせ」のお便り

在宅取組の方法について説明

今年度の年間計画

「家庭教育って何？家庭教育学級って何？」(県資料)

使用した「わが家の約束カード」

「話そう！語ろう！わが家のやくそく」カード

くみ 名刺 () ぐみ

「家庭教育を実施する日」は6月30日までです。

わが家のやくそく

1日1回 家族のだれでもよいのでぎゅっとハグをしよう

ひにち	6/	6/	6/	6/	6/	6/	6/
ようび							
がんばっ たよ!							

シールを はるのもいいですね！たっぷり はめてあげてください

こどもから おうちの大人へ

おうちの大人から こどもへのメッセージ

終わったら裏へもってきてください

「話そう！語ろう！わが家のやくそく」カード

くみ 名刺 () ぐみ

「家庭教育を実施する日」は6月30日までです。

わが家のやくそく

1日1回 家族のだれでもよいのでぎゅっとハグをしよう

ひにち	6/	6/	6/	6/	6/	6/	6/
ようび							
がんばっ たよ!							

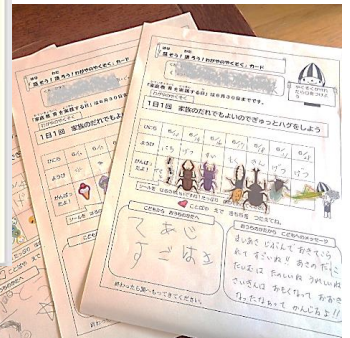
シールを はるのもいいですね！たっぷり はめてあげてください

こどもから おうちの大人へ

おうちの大人から こどもへのメッセージ

終わったら裏へもってきてください

がんばれたら、親子でシールを貼っていきます。もちろんサインやスタンプ、イラストでもOK!



先生からは温かいコメントが!

家族のメッセージより

- *まいあさじぶんでおきてこられてすごいね!!あさのだっこたいむはたのしいね、うれしいね。さいきんはおもくなっておおきくなったなあって感じるよ!!
- *〇〇ちゃんときゅうすると、幸せな気持ちになれるよ。ありがとう。
- *かぞくみんなとハグできてよかったね。お父さんやお兄ちゃんとはなかなかできないので、こういう機会があって良かったです。これからも毎日キューツてしようね。
- *まいにちおとうさん・おかあさん・〇〇とハグできてたのしかったね。おかあさんたちもうれしくてところがあたたかくなったよ。たのしいひやちょっとかなしいことがあったひ、いろいろあるけど、まいにちハグするとげんきになれるね。またハグしようね。
- *パパやママだけでなく、〇〇くんやじいじ、ばあばともぎゅーってできたね。だいすき〜っていってくれてうれしかったよ。

【取組を実施してみて・・・主催者の感想】

- ・在宅取組をやったからこそ、家庭での素敵な姿を知ることができた。「やってよかった」と思う。
- ・母親だけでなく父親や祖父母、兄弟姉妹が取組に参加して下さった所もあった。温かい家庭で子どもが育まれている様子がよく分かった。
- ・普段忙しく過ごしていらっしゃる保護者の方が、家に帰ってから子どもに温かく向き合ってみえる様子が分かるなど、園の生活だけでは分からない家庭での微笑ましい姿を垣間見ることができた。
- *在宅の取組を定着させるため、次回も同様のカードを使い在宅の活動に取り組む予定である。

取材を終えて・・・

リーダー研修会の説明や市の担当者の声掛けを前向きに受け止めて下さったことが、今回の在宅取組につながりました。「コロナ禍だからこそ」と新しい取組にチャレンジされたことに頭が下がります。日常に戻ってくるにはまだ時間がかかりそうですが、様々な取組を参考にしながら、無理なく取り組める家庭教育学級を進めたいですね。



ゲーム・SNS 等の家庭の約束づくり

郡上市立郡南中学校

【講演会型 → 在宅取組型】



【取組のきっかけ】

【小中連携の観点から】

- ・以前から中学校区の小中学校と一緒に「ノーテレビ・ノーゲーム」のメディアコントロールに取り組んでいたという背景がある。
- ・校区の小学校との連携の中で、携帯電話は持っていないくてもゲーム機器を持っているという子どもが大半であり、保護者が知らないうちにオンラインゲームやチャット機能を通して他者とつながれるという実態が問題となった。

【学校評価結果から】

- ・昨年度の学校評価アンケートの結果から、コロナ禍でゲームや携帯電話（スマートフォン）に接する時間が多くなり、学習を始める時間が遅くなるなどの生活習慣上の課題が明らかになった。

【家庭教育委員の願いから】

- ・昨年度末のPTA 役員会の際に、上記の課題やコロナ禍という現状を受け、次年度はゲームやSNSについて学ぶ機会をPTA 講演会で取り上げようということになった。それを受け、家庭教育委員会では、夏休み前の時期にゲームやSNSの約束づくりについての取組を行うこととした。

【具体的な取組方法】

- ・多くの方に参加していただきやすいように、前期の参観日（6月23日）に合わせてe-ネットキャラバンによる講話「インターネットの安心・安全な利用を学ぼう」を計画。
- ・感染防止のため、当日はオンデマンド配信による講話の視聴とした。生徒は授業で講話を聴き、保護者は授業参観後に、各部屋に分かれて保護者向けの内容を加えた同様の講話を視聴。講話の後、家庭教育委員からZOOMで在宅取組「我が家の約束」についての具体的な説明や呼びかけが行われた。
- ・講話を受け、親子でスマホやゲーム等の使用について「我が家の約束」を決め、カードに記入。
- ・生徒たちが早く帰宅する三者懇談期間中（7月10日～16日）の1週間、家庭で「我が家の約束」について取り組み、約束が守れたかどうかを毎日カードにチェック。（講話の印象が残っているうちに取り組めるよう期間を設定した。また、夏休み前に実施することで、夏休みの生活に生かせるようにした。）
- ・取組が終わったら、子どもから保護者へ&保護者から子どもへそれぞれコメントを記入し、担任に提出。



講話を聴かれる保護者の皆さん

使用した「わが家の約束カード」

②日にちを決めて 取り組もう！

約束が守れたら○、守れな
かったら×でチェック

③結果について話そう！

子どもから保護者へ
&
保護者から子どもへ

①親子で話し合って 我が家の約束を決めよう！

「夜10時以降はスマホやタブ
レットは親に預ける」「1日の
メディア利用は2時間以内に
する」など



「結果について話そう！」…子ども ⇄ 保護者のコメントより

タブレットを使用するときは、約束を意識して使うことができました。日曜日は30分以上使ってしまったので、これからは気をつけたいです。(子ども→保護者)

約束の内容はとてもいいと思います。これからはもしっかり守って、タブレット等、使っていきますよ。使うときはタイマーを利用するなど、自分で工夫することも大切ですね！(保護者→子ども)

土日中も寝る前に（スマホを）見ないように気をつけられたし、ついスマホをさわることがなくてよかったので、次は時間を決めてやりたい。(子ども→保護者)

「我が家の約束」を守るように心がけていたようです。夏休みもこのまま約束を守るようにしてほしいです。(保護者→子ども)

【取組を実施してみて…主催者の感想】

- ・保護者の方の感想を読み、「やってよかった」という思いをもった。保護者の皆さんにも SNS の使い方等を学んでいただく機会となった。
- ・今後、冬休みにもう一度同じ内容で在宅取組を行う予定。特に中3は卒業を控えており、卒業するとスマホを手にする子どもがほとんどとなる。そうした際、SNS やゲームなどについての正しい知識をもっていることが大切だと考える。子どもたちが自分で考え、適切に情報機器を使う力を身につけてほしいと願っている。

取材を終えて…



現状や子どもたちの課題をしっかりとらえ、「コロナ禍だからこそ工夫して家庭教育学級を行いたい」という熱い思いをひしひしと感じました。

中学校区で課題を共有し、小学校と中学校が連携して活動に取り組まれているのが印象的です。兄弟姉妹が小学校と中学校に分かれていても、家庭で同じことに取り組めるよさがあり、また、くり返し継続的に学校と家庭でメディアコントロールについて学んだり考えたりすることは、これからの社会に巣立っていく子どもたちの「生きる力」につながります。

家庭と学校が願いを共有することの大切さを感じる取組でした。